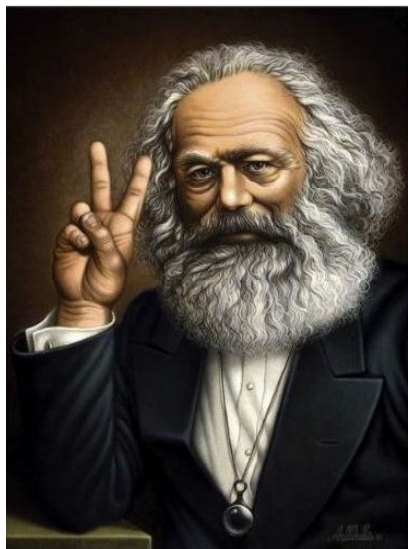


『資本論を読む会』第2回目の案内です！



DAS KAPITAL

【第2回】2018年10月25日(木)午後6時から

会場:支局事務所において

◎一緒に読む人、まだ募集中です。

1回目 30歳から74歳まで8名が参加

9月11日(火)のスタートには、8名が集まり、『資本論を読む会』がはじまりました。年齢層は30歳の若者から74歳まで。今回は都合により参加できないと返事を頂いたのは5名。次回から本文のスタートです。まだ間に合いますよ。

レポーターから

◎まずは、序文から。

①「何事も初めが難しい。この本も第一章、とくに商品の分析の部分が最大の障害になるだろう。」「価値形態にかんする節を除けば、この書は難解ではない。」

・この本を読むにあたっては、覚悟をもって、のぞめということでしょうか。しかし、「価値形態部分を除けば、この書はむずかしくないよ」と。おどし、すかし、でしょうか。

②「何か新しいことを学び、自分で考えようと志す読者を想定している」

・私たちも、そういう読者でありたいですね。

③「死者が生者をとらえている」

④科学的な批判なら、どんな批評でも歓迎する。世論というものにも譲歩はしない。しかし、その偏見に対しては次の格言のとおりである。「汝の道を行け、そして人々の語るにまかせよ！」

⑤「学問に、坦々たる大道はなく、学問の急峻な山路を登るのに、疲労困憊をいとわない者だけが、輝かしい絶頂をきわめる」

⑥(英語版の序文より)「イギリスが、平和的合法的手段で社会革命を遂行しうると、マルクスは言い、かつ、イギリスの支配階級が反逆なしにこの平和的合法的革命を甘受するだろうとは思わないと付け加える」

いよいよ次回からは、「第一巻 資本の生産過程 / 第一編 商品と貨幣 / 第一章 商品」のスタートです。

・とりあえず、1か月の間、ひととおり目をとおして、読めない漢字、むずかしい言葉の意味等を調べておこうかなと思います。

・レポートはTakさんです。よろしくお願いします。【Kaiより】

◎「みんなで渡れば怖くない」のとおり、結構面白く進められそうです。

◎参加希望の方は事務局(酒井・羽場)または発起人(田部・中島・海淵・田久保)までご連絡ください。※資料コピーの関係がありますので…